

# 協働の輪

## 自然素材で土産品

### なちゅらる

「なちゅらる」は、2006年度の離島活性化に向けた専門家派遣事業で、タイリングゲットウ素材の特産品づくりに参加したメンバーで組織する手仕事グループだ。

世話役を務める役員職員の大城リエ子さんは



タイリングゲットウの茎を原料に編み込んだ手仕事グループ「なちゅらる」が作ったかごやコースター類 北大東村役場

ハマユウ荘の須貝沢美支配人も「観光のお客さまが島を訪れても、土産品はサワラの塩漬けなど生鮮品、冷凍品が多く、気軽に持ち帰れる土産品を作りたい」と話す。

西表島の専門家から学んだ技術で生みだした特産品は、ゲットウの茎を細く板状に乾燥させて編み込んだ「月桃コースター」「月桃ゴザ」のほか、ゲットウを混紡させた布と乾燥葉を使った「月桃お守り袋」など。自然素材の風合いと、防虫抗菌作用があるとされるゲットウのほのかな香りが楽しめる手工芸品だ。

今年3月に沖縄都市モノレール県庁前駅で開いたプチ離島フェアで初出品、好評だったが、課題は生産技術の向上と普及、生産・販売体制の構築とまだなちゅらるの事業は緒に就いたばかり。

「長さ180センチのゴザには120本の茎を使うなど時間も労力もかかる作業。働く婦人が多く、仕事の合間に製品を仕上げ、それをなちゅらるで売る仕組みを、あせらずつくりたい(大城さん)と静かに燃えている。